

## 豊かな森を育むために

洗足学園中学校

一年 中井 美希

蛇口をひねると、きれいでおいしい水が当たり前のように出てくる今の日本。もし、水道から水が出てこなくなったら、たとえ一日でも私は困り果ててしまうでしょう。

水を守り続けるために、自分には何ができるのでしょうか。

水は森に育まれます。そして水は森を育みます。

私はよく家族とトレッキングに行きます。「どんなところに行きたい？」と問われると、私は必ず「滝」と答えます。大きな岩を乗り越え、滝つぼまで行き、滝のすぐそばで浴びる水しぶきが好きです。

滝のある山が好きなのは他にもあります。美しいせせらぎ、しっとりとした空気、多種多様な植物、ふかふ

かとした土。美しい滝への道のりは、豊かな森を感じられます。

ふかふかとした土は、上に蓄積している落ち葉や、土に住む動物や微生物たちの動いた跡やフンなどによってすき間ができていて、スポンジのようになっています。

スポンジのような森の土に吸い込まれた水は、その上にかぶさっている落ち葉によって蒸発しにくくなり、じっくりと時間をかけて、地下へ地下へとしみ込んでいきます。地中の小さなすき間を通ることで、ちりや汚れがとれるとともに、土や岩の中のミネラルが溶け込んでいきます。そうして、おいしいきれいな地下水ができます。豊かな森が、ときには何十年もかけて、水を育てているのです。

では、森林が多ければ、五十年後、百年後も水は守られるのでしょうか。

日本の国土面積に占める森林面積は六割以上ありますが、そのうちの四割を占める人工林には、放置されてしまった荒廃林がたくさん存在しています。

荒廃林が増えた理由には、戦後に広葉樹を伐採して杉やヒノキを植林したものの、安い外国産の木材が輸入さ

れたために国産の木材の価格が暴落し、採算が合わず放置されてしまったことや、後継者不足、就業者の高齢化などがあります。

間伐や枝打ちなどの整備がされていない人工林の中は、まるで満員電車のように細い木々が立ち並び、林の中は日光が届かず真っ暗で、草木の根が張りません。そのため、雨が降ると表面の土が流されてしまい、雨が土にしみ込まないので、地下水もできません。

このような状況で大雨や台風などが発生した場合、根が水を吸いきれずに、土砂崩れが発生しやすくなってしまう。ただ木を植えて増やすだけでは、水を育む豊かな森にはならないのです。

では、人の手で豊かな森を作ることにはできないのでしょうか。

人工林であっても、木を植えた後、下草刈り、枝打ち、間伐などの手入れを継続することで、残した木の幹が太くなり、しっかりと根を張れるようになります。

手入れをすることで、森の中に日光が差し込み、今まで発芽できなかった色々な木の種子が育ち、本来の豊かな森への再生を目指すことができます。

日本で利用する木材の七割以上は、安い輸入木材です。間伐材も出荷すると赤字になるため、山から出さないことが主流です。日本の森林資源は使われず、使われないから森が荒廃していくという現状があります。

日本の木を使い、林業が盛んになることで豊かな森が育まれているのです。

今の私にできることは、現状を知ること。また、日本の木材を選んだり、活用方法を考えたりすることが、水と、私たちをとりまく自然環境を守っていくのだという意識を持ち続けること。そしてそれを、周囲の人たちにも伝えていくことだと感じています。